

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の他にグループホームの理念を掲げ会議の際に唱和している。毎年目標を立て達成するためにどう動くのかを計画し、毎月振り返りをしている。	グループホーム独自の物が作成され、基本目標・事業計画が作成されていました。グループホームでは月1回の会議時職員と理念の共有を図り周知徹底を行っていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様と施設周辺の清掃活動を継続している。体操教室へ参加し、自治会の方との交流が行えている。	グループホームは、街の中心地にあり地域清掃等積極的な関りを行っていました。自分たちが外に出ていかなければならないと自治会(海野町)体操活動に参加しています。民生委員の方や地域の方のつながりも大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生の実習の際に支援方法を説明している。体操教室を活かし認知症状を持つ方への関わり方を説明し、上手に関わって頂いている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	生活の様子をお伝えし、構成委員の方やご家族からの貴重なご意見は支援に反映できるようにしている。また、グループホームでの活動に活かせる情報も提供して下さる。	法人全体で取り組み、生活の様子を家族や市介護課、民生委員、地域包括センター、海野町自治会長、消防署と共有し、意見等を支援につなげていました。	管理者から、お願いはするが何かできないか模索されていると、災害時の避難場所的な役割を検討されていました。運営推進会議や自治会等と協議されることを望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて入居者様の生活に関する事案は包括、市担当者へ相談するようにしている。	何かあった時や日常の中での困りは、包括センターや、施設の近くに福祉課があるので相談や積極的な関りを持つようにされていました。	

グループホーム上田大手門

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護委員会を通し毎月巡回している。身体拘束のないケアを行っている。	身体拘束等は、委員会を中心に研修、や施設の巡回をしていました。ベッド柵・センサーマットは使用しない、薬もないなど意識を持ち、拘束のない生活を送ってもらえるようにしていました。入所時のケアは寄り添いを中心に手厚い支援がされていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護や虐待についての勉強会を施設全体で行い各委員メンバーが毎月巡回し、評価している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見等、必要と判断した際は制度について説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に施設見学をして頂き雰囲気等を見て頂いている。その際に生活の様子、日課等説明している。万が一解約となる場合の説明は丁寧に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口について掲示している。介護相談員の訪問があり、入居者様からの聞き取りをして頂いている。ご家族等の面会時には管理者、職員から声をかけ気軽に要望等話せるよう心掛けている。	苦情処理は、入居契約書にも記載され利用者、家族にも説明がされていました。家族向けアンケートが作成されたり、意見箱のポストが設置され要望を積極的に受け入れていました。その回答は「お便り」に記載され改善に取り組みられていました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、管理者、ユニットリーダーが集まり会議を開いている。ホーム内の会議で報告し意見交換や要望の有無を話し合うようにしている。	職員の意見は、毎月の会議で取りあがられていますが、毎日昼食後のミーティングで昨日と違いや問題が提案され改善されるようになっていました。	

グループホーム上田大手門

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、代表者と面談している。 管理者は職員個々の働き方見ながら問題が生じていないか確認し、必要時に働き方の見直しをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験値に合わせ、資格取得できるよう働きかけている。 施設内での勉強会へ参加できるよう勤務の調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外聞研修を通して他事業所との情報交換、交流が図れるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居開始からしばらくは、特に環境の変化も大きくなるため職員の関わりを多く持つようにし、職員間で細かな事も情報共有を行いながら信頼関係がつかれるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の心情や思いを受け止め、ホームでどのように暮らして欲しいか聞き取り実現に向けて支援方法を検討している。家族アンケートを実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	福祉用具、福祉車両、医療系サービス等。必要時に合わせ柔軟に対応できるよう努めている。		

グループホーム上田大手門

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一つの家族と捉え、出来ることは職員も一緒に行い、労いの言葉を忘れないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際に本人も交えて生活の様子(エピソード)をお話している。施設のイベントや誕生会等ご家族へ参加依頼をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族を通して、ご本人の兄弟や、昔からの知人等の面会が行えている。	利用者の今までの生活を繋げるために、家族の面会時に写真をお願いしたり、姉妹の面会をお願いしている。自宅近所の方の面会もあるようです。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が声を掛けあえるよう職員が介入している。食事やお茶の時間、日課となっている作業時に会話できるよう声かけの工夫をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の暮らしに合わせ包括や医療と連携を図りご本人、ご家族が安心できるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様個々の生活ペースに合わせて暮らせるように支援している。起床、就寝時間は決まっていない。食事形態、嗜好に合わせ提供している。	利用者の思いや希望の把握は表情から察することがある。グループホームでの生活の中から話ができてきている。断片的な話や体験(野菜作り等)から探ることを行っている。	

グループホーム上田大手門

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前任CM、ご家族から、これまでの生活歴を聞き取りし、支援に活かせるようにしている。作業や活動時にご本人の言葉で話せるよう工夫している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24Hシート、介護記録へ記載することで活動状況の把握、心身状態の変化に気づけるよう詳しく、ご本人が発した言葉を記載するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書の内容に沿った実施モニタリング表を活用し毎日サービス内容の確認をしている。 日々の小さな変化については、ミーティングの際に話し合える時間がある。	支援計画作成し、プランにつなげ、見直しがされていました。計画を立てる中、支援して欲しいことはなんであるか、自身でやれることは何かを大切に、職員間でも共有していました。また言いづらいことも察する努力をされていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録へご本人が発した言葉、行動や気づきを記載し職員間の情報共有や支援方法に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合型施設の特徴を活かし、希望があれば住み替えが可能となっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で地域との繋がりが継続できるよう働きかけている。自治会等で貢献できる役割はないか情報を頂いている。		

グループホーム上田大手門

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の内科回診が週2回、精神科回診が月2回の診療があり健康相談が行えるようにしている。回診時の報告をご家族へ報告している。	指定の医療機関度は定期的に診療や相談が行われていました。かかりつ毛での通院は家族の協力でできていました。眼科、歯科通院は家族が行っていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師との申し送りを毎日行い、多職種間での情報共有出来ており、必要な支援や処置等を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者は日頃から回診の際に医師と体調面について話す機会がある。早期治療開始できるよう家族と協議し、入院中の様子から早期退院できるよう働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「看取りに関する方針」と利用者の自己決定(生前指示書)の説明を行い、書面で同意頂いている。体調変化が生じる際には、ご家族と意向の確認をしている。	入居時に重要事項説明と同時に看取りの説明がされ本人家族の移行が確認されていましたが、状況により家族確認、医療機関との連携ができるシステムになっていました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルがあり、読み合わせや必要器具、物品の保管場所、使用方法について看護師の指導の下、勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春と秋の年2回消防署の協力を得て防災訓練を行っている。災害を想定し緊急連絡訓練も行っている。	災害時の地域との協力体制はできていました。グループホームには、道幅が狭く消防車が入らず近くのコンビニの駐車場を利用して消火・救助活動が行われる協力ができていました。	所属自治会は、商店が多く夜間の協力が期待しにくく、自治会消防団との消火訓練を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた声かけの仕方やタイミングを意識して行っている。プライバシーを損ねないよう配慮している。	居室は個室になっておりプライバシーは、保てる取り組みがされていました。特に排泄はリハビリパンツを利用していますが、2時間ごとの声掛けにも、本人の自尊心を守る取り組みがされていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わりの中で出来る事、支援が必要な事を見極め、一人ひとりが持つ力を発揮できるよう取り組んでいる。生活の中で自己選択、決定が出来るような言葉かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活スタイルに合わせて支援している。その時々で過ごしたい場所で過ごして頂き、食事の座席も決まっていな。入浴時間も希望に沿えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着は自身で選択できるよう声をかけている。外出時は特に身だしなみを整え、お洒落をして出掛けている。毎月訪問美容を利用し好みのヘアスタイルにして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食食事の盛り付けを皿を選ぶところから行い、分担して盛り付けていただいている。食後の下膳やテーブル拭きも日課となっている。昼食、夕食は職員も一緒に同じ食事を摂っている。	食事は自法人施設で作られご飯はグループホームで炊いていました。また一品は自分たちで作られていました。特に屋上に畑を作りジャガイモ、玉ねぎトマトを作り食材として活用されていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を個別に記録し摂取量を把握している。体調に合わせた食事形態を柔軟に提供できるよう管理栄養士と相談している。		

グループホーム上田大手門

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。夕食後の義歯洗浄剤使用し清潔保持している。自力での口腔ケア困難の方には口腔用ウェットを使用している。 口腔状態に変化が生じる際は歯科往診、または受診している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24Hシート、介護記録の活用し、排泄間隔、排泄量等を把握できるようにしている。個々の状態に合わせて不快なく排泄が出来るよう支援している。	プライバシーを守り排泄支援が行われていました。自身で行える方の見守り、声掛けの必要な方等排泄シートを使い健康管理も兼ねて支援が行われていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔、量の把握を行い、介護記録へ記載している。水分量、活動量の増減の有無や看護師と相談し必要時投薬調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴手順、入浴時間等個々に合わせた入浴方法で支援している。湯温の好みや入浴剤を使用し楽しみとなる工夫もしている。	入浴は週2回、午後行われ1日2から3名の希望の方を1対1の関りで支援されていました。同姓介護で支援されていましたがや無負えない場合は本人の了解のもと介助がされていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間は決まっていない。個々に合わせた居室室温、明るさにしている。日中も自由に休息できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬確認を毎日看護師と行う。服薬間違いや飲みこぼし防止の為服薬の確認を声に出してから内服して頂いている。		

グループホーム上田大手門

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る力を生活場面で発揮できるよう場面作りしている。屋外で過ごす時間を多く設け気分転換が図れるようにしている(外食、体操サークル、畑、イベント等)。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の要望に応えられるよう計画している。実現できるように職員配置を行い、ご家族の参加も促している。	定期的には海野町の体操に参加されています、月1回の外食、特に回転ずしは楽しみにされていました。映画を見に行く希望、買い物等ができていました。希望外出には家帰る、墓参りも支援されていました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設事務所で行う。外出時の買い物の際は支払い手続きが個々で行えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話が入る際は通話出来るようにしている。携帯を持っている方は居室でゆっくり通話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースの家具類は木目超で温かい印象となるようにしている。季節に合わせ装飾や植物をテラスで育てている。対面型のキッチンから食事の準備を行う音やご飯の炊ける匂いなど、入居者様も自由に入りできるようになっている。	個人を大切にされていますが、ダイニングでみんなと過ごされるのも、少し離れたところに居るも良しとなっていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同TV前やダイニングへソファ、椅子を設置し好きな時間に、好きな場所で過ごせるようにしている。		

グループホーム上田大手門

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	収納家具、床頭台、ベッドは各居室に設置されているが個々で使いやすいよう配置は自由に行っている。使い慣れた寝具を使用している方もいる。	ホームでは、慣れた枕、茶わん、湯飲み等、今まで使っていた陶器の食器が使われていました。破損したときは一緒に買いに行く等細かい気遣いがされていました。今までの生活を大切にする支援がされていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ダイニングを中心に個室9部屋、トイレ2か所がホーム入口と奥に設置されており、見守りがしやすい環境となっている。居室から共同スペースへの出入り、朝晩、カーテンの開閉等出来る事を継続していけるよう工夫している。		